

## 第一内科

### 業務内容調査とアンケートの実態

発表者 丸山 美知子

碓氷 洋子

第一内科一同

看護とは、すべての人々に対して、健康の保持、増進あるいは健康を回復するように、その人の、基本的ニーズに従って、これを直接的、個別的に援助することであると、うたわれている。

最近の医学の発展とともに、看護も大きく進歩、変化しつつある。この医学の発展のかけには、大きくふくれ上った診療の補助が、今迄の看護の上に重ってきている。

例えば、腎炎でウレミーになった患者さんは、どうする事もできず、ただ傍観しているのみであったが、現在は、腹膜灌流によって、延命が可能になった。しかし、40分毎の灌流液の保温、注入、排液の繰り返し等で、一日中診療の補助で終わってしまう。此の様な看護の現状を、患者さんはどの様に受けとめているかを知りたいと、かねがね思っていた。

丁度其の頃、昭和45年10月5日から7日まで、文部省より看護要員業務内容調査があり、幸にも各々の時間を正確に記載する機会を得て、あらためて、私達の勤務時間がどの様に使われているかを、はっきり知ることができた。それによると、患者の身のまわりの世話よりも、診療の補助が全体の109.6%にも使われている事がわかり、これをヒントに、看護の基本である、患者の接触時間の増大をめざして研究をしてみたいと考えた。

昭和45年10月5日から7日までの、戸塚内科病棟状況と勤務人員

#### 病棟状況

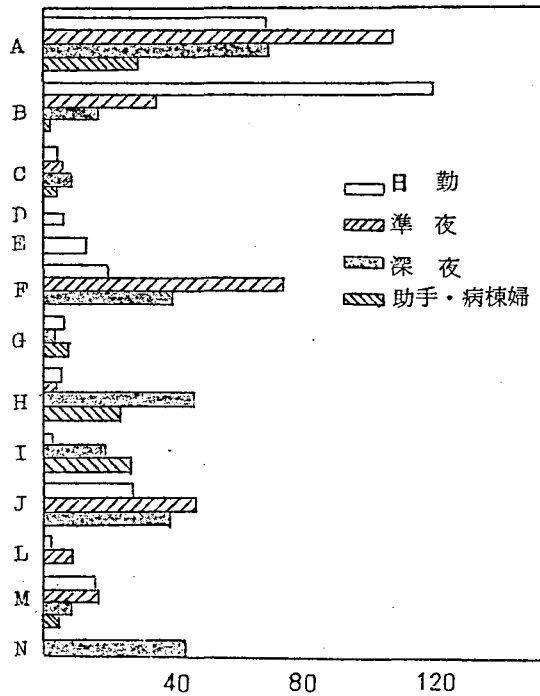
10月	5日	6日	7日	10月	5日	6日	7日
定床数	40	40	40	準夜	1	1	1
患者数	37	37	36	深夜	2	2	2
重症患者数	5	5	5	ヘルパー	1	1	1
付添人家族	6	6	6	病棟婦	1	1	1
日勤	5	5.5	4.5	代休	2	1	2.5
遅出	1	1	1	休暇	0	0.5	0

看護業務内容

看護業務内容説明

略号	業務区分	看護業務内容
A	患者の身のまわりの世話	(1)病室の環境整備 (2)ベットメイキング (3)身体の清潔 (4)衣服の世話 (5)食事の介助 (6)排泄の世話 (7)保温 (8)体位変換 (9)移動および歩行の介助 (9)患者輸送 (10)検温、計測、経過観察 (11)経口薬の投与 (12)病室巡視 (13)入退院の世話 (14)療養指導 (15)家族に対する連絡 (16)死後の処置等
B	診療の補助	(1)診察、治療、手術、分娩、回診の準備、介助、後始末 (2)医師に対する報告、連絡 (3)注射 輸液 処置 機能訓練等の準備、介助または施行、後始末
C	検査の補助	検査の準備、介助または施行、後始末(各種カメラ、X線撮影、穿刺、各種機能検査、血液・尿等検査等)
D	教育研究の補助	臨床講義、ポリクリ、病床で行なう小グループ教育、その他病院内で行なう学生の教育の補助
E	附属看護学校生徒等の教育指導	臨床実習指導 看護学校等における講義 臨床指導連絡会議等
F	看護記録等事務	(1)看護関係記録(看護日誌、体温表、カードックス、病棟日誌等) (2)看護計画表、看護職員勤務表作成 (3)医師指示書確認
G	一般事務	(1)文書(カルテ、X線フィルムを含む)の整理、保管 (2)記録(看護記録を除く)、各種伝票 統計の作成 諸手続 (3)備品、消耗品、薬品等点検、整備 (4)その他の庶務的業務 (5)事務連絡(電話の取次ぎを含む)
H	医療器材の消毒調整	中央材料部等において集中的に行なっている医療器具、機械のセット組合せ、消毒、洗浄、手入れ、衛生材料の調整等
I	補助的業務	掃除、洗濯、洗濯物整理、メッセンジャー的業務等
J	勤務交替引継	
K	受付・案内	外来等における受付、呼出、案内等
L	その他	上記各事項に該当しないもの (カンファレンス、事務打合せ会等)
M	休憩・休息	食事等の時間を含む
N	待機	

## 業務分析3日間の集計



### アンケート

次に患者さんは、どのような看護を望んでいるのかを知るために、各科においてアンケートをとってもらい。此のアンケートを作ったきっかけは、或る学生の実習記録からヒントを得たもので、ここに実習記録の抜粋を紹介する。

「身のまわりの世話をしただけで、申し訳ないと言う。こちらは当然のこととして行っているのだが、患者さんにしてみればそうではない。看護婦さんが忙しく一人一人の細かい部分にまで、目が届かない現状が当然のように受けとられているため、患者さんは、何が本当の看護業務なのか、正しい受け取り方をしていないと思う。」というものであった。

そこでこの本当の看護業務をどのように患者さんは知っているのか、希望しているのかを、知るために、アンケートの項目を選んだ。看護婦はの間、2.3.4.5.1 Qは看護婦と患者の内面的なつながりを調べるために、此の様な形であげた。同一内容の質問を多角的に聞く方が良いと思ったからである。看護婦はの間1から14問は基礎看護を参考にして日頃の勤務から打ち出した項目である。

### アンケート内容

方法 下記の間に対して、はい、いいえのいずれかに○をして下さい。

基準看護について

- 言葉を知っている。 はい いいえ
- 内容を知っている。 はい いいえ
- 全く知らない。 はい いいえ

看護婦は

- 1 親切ですか はい いいえ
- ② ベットのそばに来て話して行く事がありますか。 はい いいえ
- 3 きまった事しかやってくれないですか。 はい いいえ
- 4 ベットのまわりを整頓してくれますか。 はい いいえ
- ⑤ 時には御飯時見廻りし食事内容を見ていきますか。 はい いいえ
- 6 花の水を取り変えてくれますか。 はい いいえ
- ⑦ 配膳下膳をしてくれますか(必要の人) はい いいえ
- ⑧ 適切な処置をしてくれますか。 はい いいえ
- 9 めんどろくさがりますか。 はい いいえ
- ⑩ 頼み易いですか。 はい いいえ
- 11 診察とか検査の後始末は丁寧ですか。 はい いいえ
- ⑫ 夜間の看護に不安を感じますか。 はい いいえ
- 13 皮下筋肉注射後はマッサージしてくれますか。 はい いいえ
- 14 汚物糞尿吐物はすぐ片付けてくれますか。 はい いいえ

患者さんは

- ① こんな事を頼んではいけないと思ひ躊躇しますか。 はい いいえ
- 2 同室の人に遠慮して頼まない事がありますか。 はい いいえ
- ③ 忙しそうで頼むのを遠慮していますか。 はい いいえ

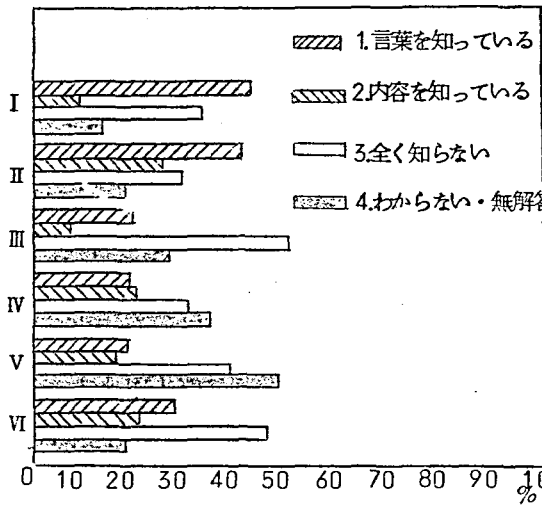
○のついた項目のみを抜粋してグラフにした。回収率は各病棟共に、重症患者以外は全部回収したので100%と考える。

各病棟から収集した枚数

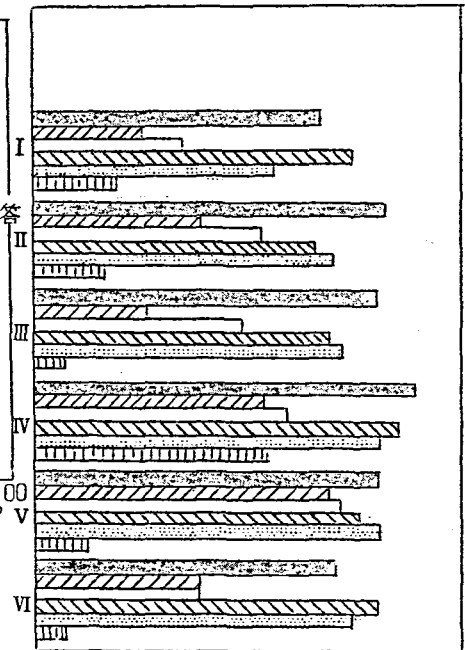
I病棟	34枚	IV病棟	29枚
II病棟	38枚	V病棟	31枚
III病棟	30枚	VI病棟	28枚

アンケートの結果

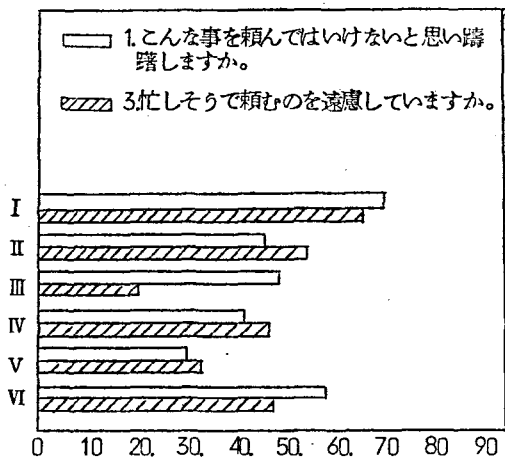
基準看護について



看護婦について



患者さんは



重点的に当病棟の問題点となる、アンケートの説明

看護婦はの2つの間でも他の病棟にくらべ、ベットサイドに行くパーセントは、一番低く、従って12の夜間の看護にも不安を感じる。という結果に至っている。しかし、病棟Ⅳの様にベットサイドには、百パーセント看護婦が行っているのに対し、夜間の看護に不安を感じると言う結果もでている。患者さんは、の問3番忙しそうで頼むのを遠慮していますか、では当科は断然多く63%を示している。

こうして両方の表を比較してみると、業務内容調査からは、ベットサイド看護の少ない事がわかり、アンケートからは、ベットサイド看護の少ない不満が現われており、奇しくも一致する様な結果が浮かび上がった。

やはり私達の行っていた看護は、患者さんとの接触時間の少ないものであり、身のまわりの世話をしただけで「申し訳ない」と言わせた原因でもあった。そこで、此の資料をもとに看護業務をもう一辺考えてみた。

先づ第一に、看護婦の姿勢に問題があると思った。今迄は、診療介助の側に立って、患者を看護していたとしか思えない。第二に病気を持った一人の人間として患者をあかった事があるだろうか。患者のニーズに応じた看護を、基本的に打ち出し、少なくとも勤務時間の半分以上がベットサイドに移行する様に努力しようと話し合う。

その結果、私達はありきたりの言葉であるが、患者中心の看護に徹するべきだと言う結論を得た。そして、まず第一に、カードックスに依る看護計画の展開を実施することにした。これに依って、看護の態勢は患者中心の看護に、やや移動した様に考えられるがもっと研究に努力し積み重ねていかなければならない。

最後に、此の様なアンケートを作成して、状態を知った事が、何よりの収穫であった。同時に尙一層の奮起をした。アンケートに御協力ありがとうございました。

## 耳鼻咽喉科

### 失声状態にある患者の コミュニケーションⅡ

発表者 二村 美代子

耳鼻咽喉科一岡

#### 1. 事象の紹介

前回の研究で失声状態にあるPtとNsのコミュニケーションの関係はとかくNsからPtへの動きかけが強く、一方的になっているのではないかという疑問が持たれました。そこで私達は前回に引き続き、失声状態にあるPtとNsのコミュニケーションの関係を良くしてゆくにはいかにしたらよいか更に検討してみる事にしました。

#### 2. 状況の確認(イメージを備える)

前回のテーマをとりあげて検討してきた結果失声Ptの為に看護の動きかけがだいぶ改善され計画されてきています。

##### a. オリエンテーション